

2025 年 7 月 4 日



各 位

会 社 名 株式会社ハイレックスコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 寺浦 太郎
(コード番号 7279 東証スタンダード市場)
問合せ先 専務執行役員 管理本部長 奥村 真
(TEL 0797-85-2500)

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について（更新）

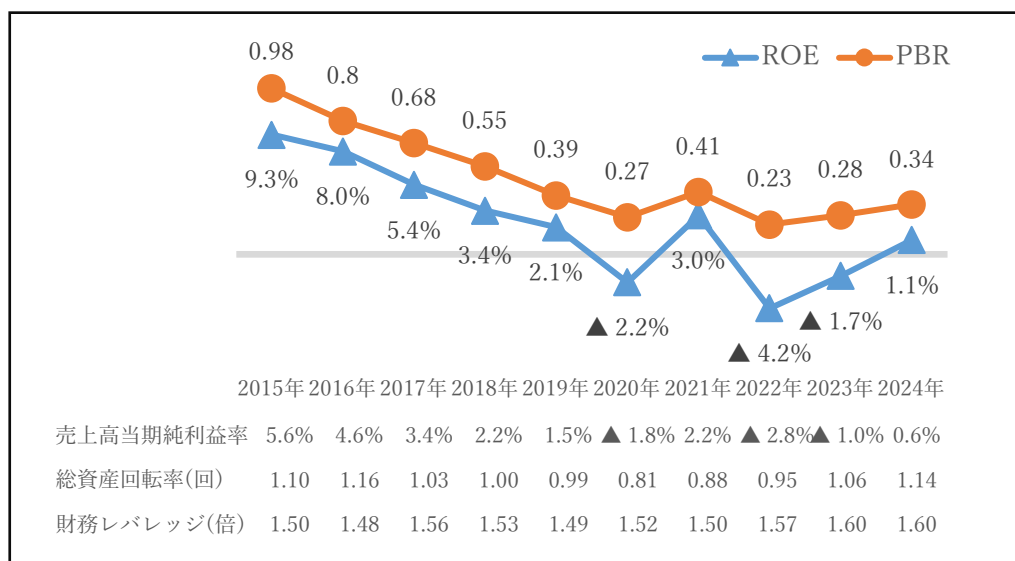
当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状分析と課題認識に基づき、2024 年 6 月 7 日に公表した内容を更新し、下記の通り決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 現状の評価

当社グループの ROE は低下傾向にあり、2024 年 10 月期においては 1.1%となっております。また、ROE の低下に伴い PBR についても 1 倍を下回る水準で推移しております。

<PBR と ROE の推移>



(※ROE＝売上高当期純利益率×総資産回転率×財務レバレッジ)

当社は、ROE 低下の主要因は売上高当期純利益率の低下であると分析しております。当社の売上高当期純利益率は 2022 年にマイナス 2.8%と大きく低下しました。その後は回復傾向にありますが、過去の数値と比較すると低水準で推移しております。結果として株主・投資家の期待する資本収益性の達成(ROE 向上)に十分に繋がっていないことから、当社の PBR が上昇しない主たる要因になっていると認識しております。

2. 今後の取り組みについて

ROE の改善に向けて、以下の取り組みを実施してまいります。

(1) 収益性の向上

① 自動車事業

主要な経営課題

- ・ 成熟市場（日本・北米・欧州）での自動車生産の減少
- ・ 成長鈍化に伴う生産拠点の稼働率低下と生産性の低下
- ・ 電動化によるケーブル販売の減少と他品種へのシフトに伴う部材費率増加と利益率の低下
- ・ 製品の高付加価値化による差別化の遅れ

構造改革/事業戦略

(ア) コア領域（ケーブル・ウィンドレギュレータ等の既存主力製品）

- ・ 生産ラインのスリム化・拠点再編、低成長に伴う稼働率低下への対応
- ・ 部材コスト上昇への対応と内製割合の引き上げ
- ・ 商品力の強化（ECU やセンサー、アクチュエータを軸とした高付加価値製品の拡充）
- ・ 北米地域における生産体制の最適化（アメリカ・メキシコの棲み分け等）
- ・ 欧州全体を見据えた生産体制の最適化

(イ) 成長領域（モビリティ変革に追従した新しい主力製品・新たなビジネス分野）

- ・ 自動車の SDV(Software Defined Vehicle)化を見据えた、ドアシステムサプライヤーへの進化
- ・ 三井金属アクト社の株式取得（ドアシステムの中核構成部品であるドアラッチ事業の拡充）

② 非自動車事業

主要な経営課題

- ・ 医療機器分野…成長に向けた生産体制と人員の拡充
- ・ 産業機器分野…ビジネスの拡大及び新たな価値創造のための新技術と新規事業の創出

事業戦略

- ・ 医療機器分野… 海外販売展開による市場成長の取り込み
- ・ 産業機器分野… 新用途開発（新顧客） & 新製品開発（コア技術）の促進
素材領域の事業化 & ソリューション事業の推進

(2) 資産の効率性向上

現状で連結純資産比 20%超となっている政策保有株式の保有高については、2026 年 10 月期中に 10%以下となるように売却を進め、更なる成長投資を実施してまいります。

成長投資を付加価値向上と利益改善につなげ、営業キャッシュフローの拡大と収益力の強化を図ります。

(3) 財政状態/財務安全性

自己資本については、経営と株主還元の双方の安定性を勘案したうえで適切な水準を維持しつつ、成長領域への投資ニーズに即応できるよう活用する方針としております。

具体的な成長投資としては三井金属アクト社の株式取得を進めておりますが、その資金調達に際しては銀行借入を行う等、自己資本とのバランスを考慮しつつ負債も活用してまいります。

また株主還元につきましては、本日(2025 年 7 月 4 日)開示しました自己株式の取得も含めて、2026 年 10 月期までに約 30 億円の自己株式を取得していく方針です。

(4) IR 活動

機関投資家向けの IR 活動については、個別 IR 面談対応や半期ごとの IR ミーティングの拡充等、精力的に取り組むことで当社の置かれた事業環境と財務状況、それらに対する事業戦略とその経過を投資家と共有してまいります。

個人投資家向けの対応については、IR フェアなど大規模イベントへの継続参加に加えて、新たな取り組みとして株主向けの工場見学イベントを計画しており、より幅広い交流を図るように努めてまいります。

以 上